



アラーム

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [アラーム設定 \(2 ページ\)](#)
- [アラーム定義 \(3 ページ\)](#)
- [アラーム情報 \(4 ページ\)](#)
- [アラームのセットアップ \(5 ページ\)](#)
- [アラーム サービスの設定 \(6 ページ\)](#)
- [アラーム定義およびユーザ定義の説明の追加 \(15 ページ\)](#)

概要

Cisco Unified Serviceability、Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ アラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供するため、システムに関する問題を修復できます。たとえば、ディザスタ リカバリ システムを使用して問題を特定します。説明と推奨処置を含むアラーム情報には、トラブルシューティングを支援し、クラスタにも適用するために、アプリケーション名、マシン名なども含まれています。

アラーム情報を複数の場所に送信するようにアラームインターフェイスを設定し、それぞれの場所に独自のアラームイベントレベル（デバッグから緊急まで）を持たせることができます。

Syslog ビューア（ローカル syslog）、Syslog ファイル（リモート syslog）、SDL トレース ログファイル（Cisco CallManager、CTIManager サービスのみ）、またはすべての宛先にアラームを送信できます。

サービスがアラームを発行すると、アラームインターフェイスはユーザが設定し、アラーム定義のルーティングリストに指定されている場所（たとえば、SDI トレース）にアラーム情報を送信します。システムは、SNMP トラップと同様にアラーム情報を転送することや、アラーム情報を最終宛先に書き込むことができます（ログ ファイルなど）。

Cisco Database Layer Monitor などのサービスのアラームを特定のノードで設定したり、クラスタのすべてのノードで特定のサービスのアラームを設定することができます。



(注) Cisco Unity Connection の SNMP ではトラップをサポートしていません。



ヒント リモート Syslog サーバの場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。このサーバは他のサーバからの Syslog メッセージを受け入れることができません。

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) の Trace and Log Central オプションを使用して、SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集します (Cisco CallManager、CTI Manager サービスの場合のみ)。ローカル Syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、Unified RTMT で Syslog ビューアを使用します。

アラーム設定

Cisco Unified Serviceability で、Cisco Database Layer Monitor などのサービスのアラームを設定できます。その後、システムがアラーム情報を送信する、Syslog ビューア (ローカル syslog) などのロケーションを設定します。このオプションでは、次のことが可能です。

- 特定のサーバまたはすべてのサーバ (Unified Communications Manager クラスタのみ) のサービスにアラームを設定する
- 設定済みのサービスまたはサーバに異なるリモート syslog サーバを設定する
- 異なる宛先に異なるアラーム イベント レベルを設定する

Cisco Unified Communications Manager の管理の Cisco Syslog Agent エンタープライズパラメータによって、リモート syslog サーバ名と syslog 重大度の2つの設定を使用して、設定されたしきい値を満たしているか、または超えているすべてのアラームをリモート syslog サーバに転送できます。これらの Cisco Syslog Agent のパラメータにアクセスするには、使用している構成に対応する次のウィンドウを開きます。

Unified Communications Manager	Cisco Unified Communications Manager の管理 で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
Cisco Unity Connection	Cisco Unity Connection Administration で、[システム設定 (System Setting)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
Cisco IM and Presence	Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Administration で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

このアラームには、システム (OS/ハードウェアプラットフォーム)、アプリケーション (サービス)、およびセキュリティの各アラームが含まれます。



(注) Cisco Syslog Agent アラーム エンタープライズ パラメータとアプリケーション (サービス) アラームの両方を Cisco Unified Serviceability で設定すると、リモートの syslog に同じアラームが 2 回送信されることがあります。

ローカル syslog がアプリケーション アラームに対して有効になっている場合、ローカルの syslog しきい値とエンタープライズしきい値の両方をアラームが超えたときにだけ、エンタープライズ リモート syslog サーバにアラームが送信されます。

Cisco Unified Serviceability でリモートの syslog も有効になっている場合、システムは、Cisco Unified Serviceability で設定されているアプリケーションしきい値を使用してリモート syslog サーバにアラームを転送します。このため、リモート syslog サーバにアラームが 2 回送信される場合があります。

イベント レベル/重大度設定は、システムが収集するアラームおよびメッセージにフィルタリング メカニズムを提供します。この設定は、Syslog およびトレース ファイルが過負荷状態になるのを防ぎます。設定されたしきい値を超えるアラームおよびメッセージのみが転送されます。

アラームおよびイベントに関連する重大度レベルの詳細については、[アラーム定義 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

アラーム定義

アラーム定義とは、参照用に使用され、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージについて説明するものです。アラーム情報は、[アラーム定義 (Alarm Definitions)] ウィンドウで検索します。サービス固有のアラーム定義をクリックすると、アラーム情報に関する説明 (追加したユーザ定義のテキストなど) と推奨されるアクションが表示されます。

Serviceability GUI で表示されるすべてのアラームのアラーム定義を検索できます。問題のトラブルシューティングを支援するため、対応するカタログに存在する定義には、アラーム名、記述、説明、推奨されるアクション、重大度、パラメータ、モニタなどが含まれています。

システムでアラームが生成されると、アラーム情報内のアラーム定義の名前が使用されるため、アラームを識別できます。アラーム定義では、システムがアラーム情報を送信できる場所が指定されたルーティング リストを表示できます。ルーティング リストには、次の場所が含まれます。これは、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで設定できる場所に対応します。

- Unified Communications Manager のみ : [SDL] : アラームでこのオプションをイネーブルにし、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでイベント レベルを指定した場合、アラーム情報は SDL トレースに送られます。

- [SDI] : アラームでこのオプションをイネーブルにし、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでイベント レベルを指定した場合、アラーム情報は SDI トレースに送られます。
- [システムログ (Sys Log)] : アラームでこのオプションをイネーブルにし、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでイベント レベルを指定して、リモート Syslog サーバのサーバ名または IP アドレスを入力した場合、アラーム情報はリモート Syslog サーバに送られます。
- [イベントログ (Event Log)] : アラームでこのオプションをイネーブルにし、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでイベント レベルを指定した場合、アラーム情報はローカル Syslog に送られます。この情報は Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) の SysLog ビューアで表示できます。
- [データコレクタ (Data Collector)] : アラーム情報はリアルタイム情報システム (RIS データコレクタ) に送られます (アラート目的のみ)。このオプションは [アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで設定できません。
- [SNMP トラップ (SNMP Traps)] : SNMP トラップが生成されます。このオプションは [アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで設定できません。



ヒント

SNMP トラップの場所がルーティング リストに表示されている場合、アラーム情報が CCM MIB SNMP エージェントに送られ、CISCO-CCM-MIB 内の定義に従ってトラップが生成されます。

[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで特定の場所に対して設定されたアラーム イベントレベルが、アラーム定義に設定されている重大度以下の場合、アラームが送信されません。たとえば、アラーム定義の重大度が WARNING_ALARM で、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで特定の宛先のアラーム イベント レベルをそれよりも低い「警告」、「通知」、「情報」、または「デバッグ」として設定した場合、アラームは対応する宛先に送られます。アラーム イベントレベルを「緊急」、「アラート」、「重要」、または「エラー」として設定した場合、アラームは対応する場所に送られません。

各アラーム定義について、追加説明または推奨事項を含めることができます。すべての管理者が追加情報にアクセスできます。[アラームの詳細 (Alarm Details)] ウィンドウに表示される [ユーザ定義テキスト (User Defined Text)] ペインに直接情報を入力します。標準的な水平および垂直スクロールバーでスクロールできます。Cisco Unified Serviceability により、データベースに情報が追加されます。

アラーム情報

アラーム情報を表示して、問題が存在するかどうかを特定できます。アラーム情報を表示するために使用する方法は、アラームを設定するときに選択した宛先に依存します。SDL トレース ログファイル (Unified Communications Manager) に送信されるアラーム情報を表示するには、

Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用するか、テキストエディタを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、Unified RTMT の SysLog ビューアを使用します。

アラームのセットアップ

アラームをセットアップするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理、Cisco Unity Connection Administration または Cisco Unified IM and Presence Administration で、指定したリモート Syslog サーバにシステム、アプリケーション（サービス）、およびセキュリティのアラーム/メッセージを送信するように Cisco Syslog Agent エンタープライズパラメータを設定します。Cisco Unified Serviceability でアプリケーション（サービス）アラーム/メッセージを設定する場合は、この手順をスキップしてください。
- ステップ 2** Cisco Unified Serviceability では、収集するアプリケーション（サービス）アラーム情報のサーバ、サービス、宛先、およびイベントレベルを設定します。
- ステップ 3** （任意）アラームに定義を追加します。
- サービスはすべて SDI ログに出力できます（ただし、トレースでも設定する必要があります）。
 - すべてのサービスは SysLog ビューアに出力できます。
 - Unified Communications Manager のみ：Cisco CallManager サービスと Cisco CTIManager サービスでのみ、SDL ログを使用します。
 - Syslog メッセージをリモート Syslog サーバに送信するには、宛先として [リモート Syslog (Remote Syslog)] チェックボックスをオンにし、ホスト名を指定します。リモートサーバ名を設定していない場合、Cisco Unified Serviceability はリモート Syslog サーバに Syslog メッセージを送信しません。
- ヒント** Unified Communications Manager サーバをリモート Syslog サーバとして設定しないでください。
- ステップ 4** アラームの宛先として SDL トレースファイルを選択した場合は、Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用してトレースの収集と情報の表示を行います。
- ステップ 5** アラームの宛先としてローカル Syslog を選択した場合は、Unified RTMT の SysLog ビューアでアラーム情報を表示します。
- ステップ 6** 説明と推奨されるアクションについては、対応するアラーム定義を参照してください。
-

アラーム サービスの設定

Syslog Agent エンタープライズ パラメータ

Cisco Syslog Agent エンタープライズパラメータは、設定されたしきい値を超過したシステム、アプリケーション、セキュリティアラームまたはメッセージを指定したリモート syslog サーバに送信するように設定できます。Cisco Syslog Agent のパラメータにアクセスするには、使用している構成に対応する次のウィンドウを開きます。

Unified Communications Manager	Cisco Unified Communications Manager の管理 で、[システム (System)]>[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
Cisco Unity Connection	Cisco Unity Connection Administration で、[システム設定 (System Setting)]>[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
Cisco IM and Presence	Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Administration で、[システム (System)]>[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

次に、リモート syslog サーバ名（リモート syslog サーバ名 1、リモート syslog サーバ名 2、リモート syslog サーバ名 3、リモート syslog サーバ名 4、およびリモート syslog サーバ名 5）および syslog 重大度を設定します。サーバ名を設定する際には、有効な IP アドレスを指定してください。syslog の重大度は、設定するすべてのリモート syslog サーバに適用できます。次に [保存 (Save)] をクリックします。[?] ボタンをクリックすると、入力できる有効な値が表示されます。サーバ名が指定されていないと、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。



注意 Unified Communications Manager でリモート syslog サーバを設定する際は、リモート syslog サーバ名に重複するエントリを追加しないでください。重複するエントリを追加した場合、Cisco Syslog Agent はメッセージをリモート syslog サーバに送信するときに重複したエントリを無視します。



(注) Unified Communications Manager をリモート Syslog サーバとして設定しないでください。Unified Communications Manager ノードは、別のサーバからの Syslog メッセージを受け入れません。

アラーム サービスのセットアップ

ここでは、Cisco Unified Serviceability で管理する機能サービスやネットワーク サービスのアラームを追加または更新する方法について説明します。



(注) SNMP トラップとカタログの設定は変更しないことを推奨します。

Cisco Unity Connection では、Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なアラームも使用します。Cisco Unity Connection Serviceability ではアラームを設定できません。詳細については、『Cisco Unity Connection Serviceability Administration Guide』を参照してください。

標準のレジストリ エディタの使用方法の詳細については、使用している OS のオンラインドキュメントを参照してください。

手順

ステップ 1 [アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] を選択します。

[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、アラームを設定するサーバを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストから、アラームを設定するサービスのカテゴリ ([データベースおよび管理サービス (Database and Admin Services)] など) を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ヒント サービスグループに対応するサービスの一覧については、「サービスグループ」を参照してください。

ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストからアラームを設定するサービスを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

サービスグループと設定をサポートするサービスだけが表示されます。

ヒント ドロップダウンリストには、アクティブなサービスと非アクティブのサービスが表示されます。

[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウには、選択したサービスのアラーム モニタとイベント レベルのリストが表示されます。また、[すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスも表示されます。

ステップ 5 Unified Communications Manager のみ：クラスタをサポートしている設定の場合は、必要に応じて**すべてのノードに適用** チェックボックスをオンにして、クラスタ内のすべてのノードにサービスのアラーム設定を適用することができます。

ステップ 6 「アラーム設定」の説明に従って設定を行います。この項ではモニタおよびイベントレベルについても説明されています。

ステップ 7 設定を保存するには、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

(注) デフォルトを設定するには、[デフォルトの設定 (Set Default)] ボタンをクリックしてから、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク



ヒント [アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで特定の宛先に対して設定されたアラーム イベントレベルが、アラーム定義に設定されている重大度以下の場合、アラームが送信されません。たとえば、アラーム定義の重大度が `WARNING_ALARM` で、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウで特定の宛先のアラーム イベント レベルをそれよりも低い「警告」、「通知」、「情報」、または「デバッグ」として設定した場合、アラームは対応する宛先に送られます。アラーム イベントレベルを、重大度がより高い「緊急」、「警報」、「重大」、または「エラー」として設定した場合、アラームは対応する場所には送られません。

Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション サービス、Cisco Unified Communications Manager Assistant サービス、Cisco エクステンション モビリティ サービス、および Cisco Web Dialer サービスのアラーム定義にアクセスするには、「アラーム定義」で説明されている [アラームメッセージ定義 (Alarm Messages Definitions)] ウィンドウの [JavaApplications] カタログを選択します。

Cisco Tomcat を使用するアラーム サービスのセットアップ

次のサービスは、アラームの生成に Cisco Tomcat を使用します。

- Cisco Extension Mobility アプリケーション
- Cisco IP Manager Assistant
- Cisco Extension Mobility
- Cisco Web Dialer

システム ログイン アラーム `AuthenticationFailed` も Cisco Tomcat を使用します。これらのサービスに対してアラームを生成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified サービスアビリティで、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] を選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、アラームを設定するサーバを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

- ステップ3** [サービスグループ (Services Group)] ドロップダウンリストから、[プラットフォームサービス (Platform Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ4** [サービス (Services)] ドロップダウンリストから、[CiscoTomcat] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ5** Unified Communications Manager のみ：クラスタをサポートしている設定の場合は、必要に応じて [すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスをオンにして、クラスタ内のすべてのノードにサービスのアラーム設定を適用できます。
- ステップ6** 「アラーム設定」の説明に従って設定を行います。この項ではモニタおよびイベントレベルについても説明されています。
- ステップ7** 設定を保存するには、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

サービスグループ

次の表に、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウの [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスに表示されるオプションに対応するサービスの一覧を示します。

(注) 一覧されているすべてのサービスグループとサービスが、すべてのシステム設定に適用されるわけではありません。

表 1: アラーム設定のサービスグループ

サービスグループ	サービス
CM サービス	Cisco CTIManager、Cisco CallManager、Cisco DHCP Monitor サービス、Cisco Dialed Number Analyzer、Cisco Dialed Number Analyzer Server、Cisco Extended Functions、Cisco IP Voice Media Streaming App、Cisco Messaging Interface、シスコヘッドセットサービス、および Cisco TFTP
CTI サービス	Cisco IP Manager Assistant および Cisco WebDialer Web サービス
CDR サービス	Cisco CAR Scheduler、Cisco CDR Agent、および Cisco CDR Repository Manager
データベースおよび管理者サービス	Cisco Bulk Provisioning サービスと Cisco Database Layer Monitor
パフォーマンスおよびモニタリングサービス	Cisco AMC サービスおよび Cisco RIS Data Collector
ディレクトリサービス	Cisco DirSync

サービスグループ	サービス
バックアップおよび復元サービス	Cisco DRF Local および Cisco DRF Master
システム サービス	Cisco Trace Collection サービス
プラットフォーム サービス	Cisco Tomcat と Cisco Smart License Manager

アラーム設定

次の表で、すべてのアラームの構成時の設定について説明します。サービスでこれらの設定をサポートしていない場合もあります。

表 2: アラーム設定

名前	説明
サーバ	ドロップダウンリストから、アラームを設定するサーバ（ノード）を選択し、[移動（Go）]をクリックします。
サービスグループ	<p>Cisco Unity Connection がサポートしているサービスグループは、[データベースおよび管理サービス（Database and Admin Services）]、[パフォーマンスおよびモニタリング サービス（Performance and Monitoring Services）]、[バックアップおよび復元サービス（Backup and Restore Services）]、[システムサービス（System Services）]、[プラットフォーム サービス（Platform Services）]だけです。</p> <p>ドロップダウンリストからアラームを設定するサービスのカテゴリ（[データベースおよび管理サービス（Database and Admin Services）]など）を選択し、[移動（Go）]をクリックします。</p>
サービス	<p>[サービス（Service）]ドロップダウンリストからアラームを設定するサービスを選択し、[移動（Go）]をクリックします。</p> <p>サービスグループと設定をサポートするサービスだけが表示されます。</p> <p>ヒント ドロップダウンリストには、実行中のサービスと実行されていないサービスの両方が表示されます。</p>

名前	説明
<p>Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Serviceのみ： すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)</p>	<p>クラスタ内のすべてのノードにサービスのアラーム設定を適用するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
<p>ローカル Syslog のアラームの イネーブル化 (Enable Alarm for Local Syslogs)</p>	<p>SysLog ビューアがアラームの宛先として機能します。プログラムはエラーを Syslog ビューアの [アプリケーション ログ (Application Logs)] に記録して、アラームの説明と推奨処置を提供します。Syslog ビューアには Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool からアクセスできます。</p> <p>Syslog ビューアでのログの表示については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。</p>

名前	説明
リモート Syslog のアラームのイネーブル化 (Enable Alarm for Remote Syslogs)	<p>SysLog ファイルがアラームの宛先として機能します。このチェックボックスをオンにすると、Syslog メッセージを Syslog サーバに保存して、その Syslog サーバの名前を指定することができます。この宛先が有効になっているときにサーバ名が指定されていないと、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。</p> <p>設定されている AMC プライマリとフェールオーバー コレクタは、リモート Syslog 設定を使用します。コレクタが使用するリモート Syslog 設定は、個々のノードでそれぞれ設定されている設定です。</p> <p>リモート Syslog が AMC プライマリ コレクタでのみ設定されていて、AMC フェールオーバー コレクタでリモート Syslog が設定されていないときに、AMC プライマリ コレクタでフェールオーバーが発生すると、リモート Syslog は生成されません。</p> <p>すべてのノードで同じ設定を正確に行い、リモート Syslog アラームが同じリモート Syslog サーバに送信されるようにする必要があります。</p> <p>フェールオーバーが AMC コントローラで発生した場合、またはコレクタの設定が別のノードに変更される場合は、バックアップ ノードまたは新たに設定されたノードのリモート Syslog の設定が使用されます。</p> <p>システムで非常に多くのアラームがフラッシュするのを防ぐには、[エンドポイントアラームを除外 (Exclude End Point Alarms)] チェックボックスをオンにします。これにより、エンドポイントの電話関連のイベントが別のファイルに記録されるようになります。</p> <p>[エンドポイントアラームを除外 (Exclude End Point Alarms)] チェックボックスは Call Manager サービスの場合にのみ表示され、デフォルトでは選択されていません。このチェックボックスをオンにする場合は、[すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] もオンにする必要があります。エンドポイントアラームの設定オプションは、アラームの構成時の設定に表示されます。</p> <p>ヒント ノードは他のノードからの Syslog メッセージを受け付けないため、Unified Communications Manager あるいは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service ノードを通知先として指定しないでください。</p>

名前	説明
リモート Syslog サーバ (Remote Syslog Server)	<p>[サーバ名 1 (Server Name 1)]、[サーバ名 2 (Server Name 2)]、[サーバ名 3 (Server Name 3)]、[サーバ名 4 (Server Name 4)]、[サーバ名 5 (Server Name 5)]の各フィールドに、Syslog メッセージを受け入れるために使用するリモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。たとえば、アラームを Cisco Unified Operations Manager に送信する場合は、Cisco Unified Operations Manager をサーバ名として指定します。</p> <p>ヒント ノードは他のノードからの Syslog メッセージを受け付けないため、Unified Communications Manager あるいは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service ノードを通知先として指定しないでください。</p>
SDI トレースのアラームのイネーブル化 (Enable Alarm for SDI Trace)	<p>SDI トレース ライブラリがアラームの宛先として機能します。アラームを記録するには、このチェックボックスをオンにして、選択されたサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [トレース オン (Trace On)] チェックボックスをオンにします。Cisco Unified Serviceability の [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウの構成時の設定の詳細については、トレース パラメータのセットアップを確認します。</p>
Unified Communications Manager および Unified Communications Manager BE のみ : SDL トレースのアラームのイネーブル化 (Enable Alarm for SDL Trace)	<p>SDL トレース ライブラリがアラームの宛先として機能します。この宛先は Cisco CallManager サービスと CTIManager サービスの場合にのみ使用できます。このアラームの宛先を設定するには、Trace SDL の設定を使用します。SDL トレース ログ ファイルにアラームのログを記録するには、このチェックボックスをオンにして、選択したサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [トレース オン (Trace On)] チェックボックスをオンにします。Cisco Unified Serviceability の [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウの構成時の設定の詳細については、トレース パラメータのセットアップを確認します。</p>

名前	説明
アラーム イベント レベル (Alarm Event Level)	<p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <p>緊急 (Emergency) このレベルは、システムを使用不能と指定します。</p> <p>アラート (Alert) このレベルは、ただちに対処が必要であることを示します。</p> <p>重大 (Critical) システムがクリティカルな状態を検出します。</p> <p>エラー (Error) このレベルは、エラーがあることを示します。</p> <p>警告 (Warning) このレベルは、警告状態が検出されたことを示します。</p> <p>通知 (Notice) このレベルは、正常ではあるものの重要な状態を示します。</p> <p>情報 (Informational) このレベルは、情報メッセージだけを示します。</p> <p>デバッグ (Debug) このレベルは、Cisco Technical Assistance Center のエンジニアがデバッグに使用する詳細イベント情報を示します。</p>

次の表に、デフォルトのアラームの構成時の設定について説明します。

	ローカル syslog	リモート syslog	SDI トレース	SDL トレース
アラームのイネーブル化 (Enable Alarm)	オン	オフ	オン	オン
アラーム イベント レベル (Alarm Event Level)	エラー (Error)	無効	エラー (Error)	エラー (Error)

エンドポイント アラームを除外	ローカル Syslog	代替 syslog	リモート Syslog	Syslog の重大度と アラートの絞り込み	Syslog トラップ

オン	不可	可	不可	不可	不可
オフ	不可	可	可	可	可

アラーム定義およびユーザ定義の説明の追加

ここでは、Serviceability のインターフェイスに表示されるアラーム定義のユーザ情報を検索、表示、作成する手順について説明します。

アラーム定義の表示とユーザ定義の説明の追加

ここでは、アラーム定義の検索方法と表示方法について説明します。



ヒント Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection のみ : Cisco Unity Connection Serviceability で Cisco Unity Connection アラーム定義を表示することができます。Cisco Unity Connection Serviceability ではアラーム定義にユーザ定義の説明を追加できません。

Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Serviceability で特定のアラーム定義を使用します。それらのアラーム定義は、Cisco Unified Serviceability で表示する必要があります。システムカタログ内のカタログに関連したアラームは表示用であることに注意してください。

始める前に

アラーム定義カタログの記述を確認してください。

手順

ステップ 1 [アラーム (Alarm)] > [定義 (Definitions)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- 次のようにアラームを選択します。
 - [アラームの検索場所 (Find alarms where)] ドロップダウン リストからアラーム カタログを選択します。たとえば、システム アラーム カタログまたは IM and Presence アラーム カタログを選択します。
 - [等しい (Equals)] ドロップダウン リストから特定のカタログ名を選択します。
- [アラーム名を入力 (Enter Alarm Name)] フィールドにアラーム名を入力します。

ステップ 3 [検索 (Find)] を選択します。

ステップ 4 複数のアラーム定義ページが存在する場合は、次のいずれかの操作を実行します。

- 別のページを選択するには、[アラームメッセージ定義 (Alarm Message Definitions)] ウィンドウで適切なナビゲーションボタンを選択します。
- ウィンドウに表示されるアラームの数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows Per Page)] ドロップダウンリストから別の値を選択します。

ステップ5 アラームの詳細を設定するアラーム定義を選択します。

ステップ6 アラームに情報を追加する場合は、[ユーザ定義テキスト (User Defined Text)] フィールドにテキストを入力し、[保存 (Save)] を選択します。

ヒント [ユーザ定義テキスト (User Defined Text)] フィールドにテキストを追加する場合、いつでも [すべてクリア (Clear All)] を選択して入力した情報を削除できます。

ステップ7 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ8 [アラームメッセージ定義 (Alarm Message Definitions)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [アラームの検索/リストに戻る (Back to Find/List Alarms)] を選択します。

ステップ9 [移動 (Go)] を選択します。

システムアラームカタログの説明

次の表に、システムアラームカタログのアラームの説明を示します。システムアラームカタログでは、Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unity Connectionをサポートしています。

表 3: システム カタログ

名前	説明
ClusterManagerAlarmCatalog	クラスタ内のサーバ間のセキュリティ アソシエーションの確立に関連するすべての Cluster Manager アラーム定義。
DBAlarmCatalog	すべてのシスコ データベース アラーム定義
DRFAlarmCatalog	すべてのディザスタリカバリ システムアラーム定義
GenericAlarmCatalog	すべてのアプリケーションで共有されるすべての汎用アラーム定義

名前	説明
JavaApplications	<p>すべての Java アプリケーションアラーム定義。</p> <p>ヒント アラーム設定 GUI を使用して JavaApplications アラームを設定することはできません。Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection の場合は、通常はこれらのアラームをイベントログに送るよう設定します。Unified Communications Manager の場合は、これらのアラームはSNMP トラップを生成して CiscoWorks LAN Management Solution と統合するように設定します。アラーム定義とパラメータを表示および変更するには、オペレーティングシステムに付属しているレジストリエディタを使用してください。</p>
EMAlarmCatalog	エクステンション モビリティのアラーム
LoginAlarmCatalog	すべてのログイン関連のアラーム定義
LpmTctCatalog	すべてのログパーティションモニタリングおよびトレース収集アラーム定義
RTMTAlarmCatalog	すべての Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アラーム定義
SystemAccessCatalog	SystemAccess がすべてのプロセス統計カウンタと共にすべてのスレッド統計カウンタを提供するかどうかのトラッキングに使用されるすべてのアラーム定義。
ServiceManagerAlarmCatalogs	サービスのアクティブ化、非アクティブ化、開始、リスタート、および停止に関連するすべての Service Manager アラーム定義。
TFTPAlarmCatalog	すべての Cisco TFTP アラーム定義
TVSAlarmCatalog	信頼検証サービスのアラーム

名前	説明
TestAlarmCatalog	コマンドライン インターフェイス (CLI) から SNMP トラップによってテストアラームを送信するために使用されるすべてのアラーム定義。CLIの詳細については、『 <i>Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Solutions</i> 』を参照してください。 ヒント Cisco Unity Connection SNMP では、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection システムのトラップをサポートしていません。
CertMonitorAlarmCatalog	すべての証明書の有効期限の定義。
CTLproviderAlarmCatalog	Certificate Trust List (CTL) Provider サービスのアラーム
CDPAlarmCatalog	Cisco Discovery Protocol (CDP) サービスのアラーム
IMSAlarmCatalog	すべてのユーザ認証とクレデンシャルの定義。
SLMAlarmCatalog	Cisco Smart Licensing のアラーム

CallManager アラーム カタログの説明

ここで説明する内容は、Cisco Unity Connection には適用されません。

次の表に、CallManager アラーム カタログの説明を示します。

表 4: CallManager アラーム カタログ

名前	説明
CallManager	すべての Cisco CallManager サービスのアラーム定義
CDRRepAlarmCatalog	すべての CDRRep アラーム定義
CARAlarmCatalog	すべての CDR 分析とレポートアラーム定義
CEFAAlarmCatalog	すべての Cisco Extended Functions のアラーム定義
CMIAAlarmCatalog	すべての Cisco Messaging Interface のアラーム定義

名前	説明
CtiManagerAlarmCatalog	すべての Cisco Computer Telephony Integration (CTI) マネージャのアラーム定義
IpVmsAlarmCatalog	すべての IP Voice Media Streaming Application のアラーム定義
TCDSRVAalarmCatalog	すべての Cisco Telephony Call Dispatcher サービスのアラーム定義
Phone	ダウンロードなどの電話関連タスクに対するアラーム
CAPFAlarmCatalog	Certificate Authority Proxy Function (CAPF) サービスに対するアラーム
SAMLSSOAlarmCatalog	SAML シングルサインオン機能に対するアラーム

IM and Presence アラーム カタログの説明

次の表に、IM and Presence Service アラーム カタログの説明を示します。

表 5: IM and Presence Service アラーム カタログ

名前	説明
CiscoUPSConfigAgent	IM and Presence Service IDS データベースの構成変更を IM and Presence Service SIP プロキシに通知する、すべての構成エージェントアラーム。
CiscoUPInterclusterSyncAgent	クラスタ間ルーティングのために IM and Presence Service クラスタ間でエンド ユーザ情報を同期化する、すべてのクラスタ間同期エージェント アラーム。
CiscoUPSPresenceEngine	可用性ステータスとユーザの通信機能に関する情報を収集する、すべてのプレゼンス エンジンアラーム。
CiscoUPSSIPProxy	ルーティング、要求者識別、およびトランスポートの相互接続に関するすべての SIP プロキシアラーム。

名前	説明
CiscoUPSSOAP	HTTPS を使用して外部クライアントとの間での安全な SOAP インターフェイスを提供する、すべての Simple Object Access Protocol (SOAP) アラーム。
CiscoUPSSyncAgent	Unified Communications Manager との IM and Presence Service データの同期を保つすべての Sync Agent アラーム。
CiscoUPXCP	IM and Presence Service 上の XCP コンポーネントとサービスのステータスに関する情報を収集するすべての XCP アラーム。
CiscoUPServerRecoveryManager	プレゼンス冗長グループ内のノード間のフェールオーバーおよびフォールバック プロセスに関するすべての Server Recovery Manager アラーム。
CiscoUPReplWatcher	IDS 複製状態をモニタするすべての ReplWatcher アラーム。
CiscoUPXCPConfigManager	XCP コンポーネントに関係するすべての Cisco XCP Config Manager アラーム定義。

アラーム情報には、説明と推奨されるアクションが含まれているのに加えて、ローカル IM and Presence Service ノード以外の問題についてもトラブルシューティングを行うのに役立つ、アプリケーション名、サーバ名などが含まれています。

IM and Presence Service に固有のアラームの詳細については、『*System Error Messages for IM and Presence on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

CiscoSyslog ファイル内のデフォルトのアラーム

次の表に、アラーム設定なしで CiscoSyslog ファイルでトリガーされるデフォルト アラームの説明を示します。

表 6: CiscoSyslog ファイル内のデフォルトのアラーム

名前	説明
CLM_IPSecCertUpdated	変更が発生したため、クラスタ内のピア ノードから IPSec 自己署名証明書がインポートされました。
CLM_IPAddressChange	クラスタ内のピア ノードの IP アドレスが変更されました。

名前	説明
CLM_PeerState	クラスタ内の別のノードとのClusterMgrのセッション状態が、現在の状態に変更されました。
CLM_MsgIntChkError	ClusterMgr は、メッセージの整合性チェックに失敗したメッセージを受信しました。 これは、クラスタ内の別のノードが誤ったセキュリティパスワードで設定されていることを示す場合があります。
CLM_UnrecognizedHost	ClusterMgr は、このクラスタ内でノードとして設定されていない IP アドレスからメッセージを受信しました。
CLM_ConnectivityTest	Cluster Manager により、ネットワーク エラーが検出されました。
ServiceActivated	このサービスはアクティブになっています。
ServiceDeactivated	このサービスは現在非アクティブになっています。
ServiceActivationFailed	このサービスをアクティブにできませんでした。
ServiceDeactivationFailed	このサービスを非アクティブにできませんでした。
ServiceFailed	サービスが突然終了しました。サービスマネージャが再起動を試みます。
ServiceStartFailed	このサービスを開始できませんでした。サービス マネージャがサービスの開始を再度試みます。
ServiceStopFailed	数回の再試行後に指定されたサービスを停止できません。サービスは停止済みとマークされます。
ServiceRestartFailed	指定されたサービスを再起動できません。
ServiceExceededMaxRestarts	再起動の試行を最大数行っても、サービスを開始できませんでした。
FailedToReadConfig	設定ファイルの読み込みに失敗しました。設定ファイルが壊れている可能性があります。
MemAllocFailed	メモリの割り当てに失敗しました。

名前	説明
SystemResourceError	システム コールに失敗しました。
ServiceManagerUnexpectedShutdown	予期しない終了後にサービス マネージャが正常に再起動されました。
OutOfMemory	プロセスからオペレーティング システムに対してメモリが要求されていますが、使用可能なメモリが不足しています。
CREATE-DST-RULE-FILE-CLI	新しい DST ルール ファイルが cli から生成されます。電話機を再起動する必要があります。電話機を再起動しないと、DST の開始日/終了日が間違った日付になります。
CREATE-DST-RULE-FILE-BOOTUP	新しい DST ルールファイルがブートアップ中に生成されます。電話機を再起動する必要があります。電話機を再起動しないと、DST の開始日/終了日が間違った日付になります。
CREATE-DST-RULE-FILE-CRON	新しい DST ルール ファイルが cron から生成されます。電話機を再起動する必要があります。電話機を再起動しないと、DST の開始日/終了日が間違った日付になります。
PermissionDenied	このプロセスにはこの操作を実行する権限がないため、この操作を完了できませんでした。
ServiceNotInstalled	実行可能ファイルの開始が試行されていますが、サービス制御マネージャでサービスとして設定されていないため、開始できません。サービス名は %s です。
ServiceStopped	サービスが停止しました。
ServiceStarted	サービスが開始されました。
ServiceStartupFailed	サービスが開始されました。
FileWriteError	プライマリ ファイルパスに書き込めませんでした。